

## 生田緑地自然環境保全管理会議ニュースレター

## ■ 議事概要

◇日時：令和4年12月28日(水) ◇場所：市民活動室 ◇参加：12名  
◇議題：『目標とする自然』についての連続した話し合い 第1回

～これから生田緑地の自然とどう向き合っていくべきか～

兼ねてより壮大なテーマとして挙がっていた本題について、1回目の議論が行われました。

## 1. 『目標とする自然』 意見交換

今後の方向性を検討する上でまず会員間で意見を交換しました。出た意見の抜粋は以下です。

## ・ ナラ枯れ被害でわかった事 『使うことが自然を守ること=wise use』

→生田緑地の自然の大部分を占める雑木林の主要樹種コナラは、かつて薪や炭、ほだ木等として定期的に伐採し利用されていましたが、利用が減り伐採されなくなったコナラは今回ナラ枯れの標的となりました。倉本会長より、人が手を入れた雑木林が300年続いた武蔵野台地の事例共有がありました(右写真)。



△昭和40年代の武蔵野の雑木林

『使うことが自然を守ること=wise use』つまり、保全とは賢い利用のことであり、保護と利用を内包した概念であるという意見です。

また、wise use へ向かう手法のひとつとして、倉本会長より『管理費を稼ぎ独自の財源を確保』する自律的な公園管理運営の提唱がなされました。生田緑地の自然に係るお金…伐採等の実働管理や生物多様性維持に関わる専門家の配置など、管理レベルアップのための予算が不足しているという意見の共有がありました。

## ・ 『生きた木を切る=自然破壊』の脱却

→上記のように、雑木林の環境は伐採されながら維持されてきました。

落葉広葉樹の雑木林は、多様な生き物たちの棲家であり、雑木林を維持することが生き物たちの保全に繋がることが改めて共有されるとともに、これまで雑木林再生活動を実践してきた市民部会(里山倶楽部)の経験から、雑木林再生には、継続性の高い市民の力が必要不可欠であることを再確認しました。また、生物多様性の観点では、枯木にも価値があるという意見も出ました。

## ・ 『生田緑地の価値』を改めて理解し、普及させる

→生田緑地が都市の中の孤島として持つ自然のポテンシャルの高さは、川崎市民にとってかけがえのない財産であり、認知普及・意識醸成の大切さが共有されました。



## ・ 『生田緑地ビジョン』との関係

→生田緑地の自然のコンセプトについて立ち返る場所である「生田緑地ビジョン」(川崎市が策定)。現状の生田緑地ビジョンは「保全」と「利用」を分けた考え方で進めている中、利用しない部分について手をかけられていないので、上記のwise useの概念を取り入れ土地利用を見直す必要があるのではないかという意見がありました。

## ・ 民家園を取り巻く里山管理

→民家園と連携し、建物のみならず植生についても伝統的な里山管理を実践できるとよい、という意見がありました。茅葺屋根の材料であるカヤを供給できる営場づくりなど。



## 2. 『目標とする自然』 第2回話し合い キーポイント

1.の意見を踏まえ、第2回に話し合うキーポイントとして以下が挙げられました。

### 自然会議の在り方・構造について

かねてより課題としてきましたが、現在の自然会議構成員だけでは、意見の偏りやパワー不足であり、1.の意見を踏まえた『目標とする自然』に臨むことが難しい状況です。

### 川崎市役所内外への働きかけの方法について

自然会議の構造と並行して、生田緑地マネジメント会議や川崎市役所との参画方法について検討することも大切な課題として挙がりました。

### 生田緑地の自然の魅力普及について

生田緑地の自然への『理解』と『実践』を同時に行う仕組みの検討。

出た意見

- ・ファンクラブ立ち上げの検討 ・それぞれの団体に何が出来るか。
- ・活動メニューを豊富に用意できるとよい。
- ・自然の管理にかかるお金を「自分達で稼ぐ」に繋げることを考える。



### 植生管理計画の課題について

これまで運用してきた植生管理計画について、以下のような課題が抽出されました。

- ・管理者が定まっていないエリア※をどうするか。  
今年度ナラ枯れ木を伐採したエリアにも管理者が定まっていないエリアが多数あります。

※市民団体・指定管理者・川崎市がそれぞれエリアを担当しています。

「植生管理計画」の詳細はこちら



- ・管理水準アップのためには、運用しやすいカルテが必要。  
カルテ（計画）の作成及び修正やモニタリングには、専門の担当者が必要。  
但し、これまでの記録・やり方は尊重することも大切。

### 自然の利用 について

自然の利用について、会員から以下のような話題が共有されました。  
生物多様性を忘れずに、生田緑地で可能なことは何か、慎重に検討していきます。

- ・エネルギー利用（剪定枝等）・カーボンクレジット（例:農地へ炭提供）
- ・ナラ枯れ材を使った家具（ベンチ・フローリング）制作の事例・外用ベンチ制作の事例
- ・カヤ（草本）の使い道 ・楽しく自然に親しむ場としての利用

※「利用」という用語の整理は今後の課題とします。

